

オオバコ科 オオバコ属

へらオオバコ (筥大葉子)

Plantago lanceolata L.

自生環境

道ばた、荒れ地、土手 など

原産地

ヨーロッパ

予想される被害



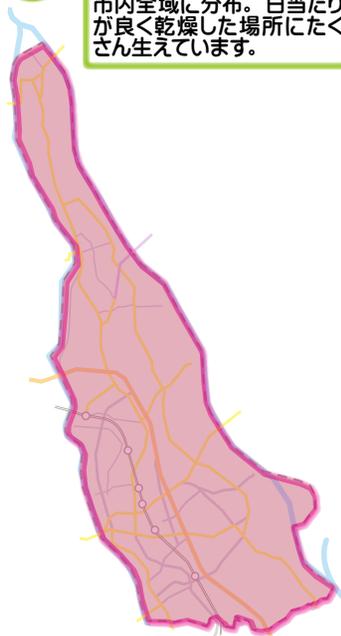
とても丈夫で繁殖力が強いので、他の植物が育つ場所を奪ってしまっています。また、花は大量の花粉をまき散らすため、初夏の花粉症の原因植物となっています。

特徴

- ☆ ヨーロッパ原産の1～越年草。持ち前の繁殖力と環境適応力で世界じゅうに広がっています。国内には江戸時代の終わりごろに渡来し、現在は全国各地の日当たりのよい場所でごく普通に見られます。乾燥にとっても強く、幹線道路の路傍などにもたくさん生えています。
- ☆ 株もとから細長い葉を多数出します。葉はややねじれ、表面には毛が多く生えています。ロゼットの状態で越冬します。
- ☆ 5～8月頃、株もとから次々と花茎を立ち上げ、その先に長さ1～2cmほどの円柱形の花穂をつけます。花茎は50cmくらいになります。花は下から上に向かって咲き進みます。最初雌しべが顔を出し、時間差で雄しべが顔を出します。花粉を風の力で運ぶ風媒花なので、花粉症の原因植物にもなっています。

市内の分布状況

市内全域に分布。日当たりが良く乾燥した場所にたくさん生えています。



大きなへらオオバコがある

へらオオバコのうち特に大型になるものは、オオへらオオバコと呼ばれます。オオへらオオバコは葉の長さ25cm～40cm(典型株10～20cm)、花の穂の長さ4～8cm(典型株3～4cm)で、へらオオバコの変種に位置づけられています。ただへらオオバコは生えている場所の環境に応じて株の大きさが変動するため、オオへらオオバコをあえて呼び分ける必要はないかもしれません。



たくさんの小さな花が集まって穂になる

花茎に葉は無い

葉は細長くへらのようなかたち



雌しべ

雄しべ

花は下から上に向かって咲き進む

花を揺らすと花粉が舞う



花冠は淡茶色で4つに開く

花びらは果実期も残る

果実は穂になつてつく

果実中に2個のタネが入っている



わぴちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

